

連載

健康でいきいきと 働きつづけられる 職場づくりを

第五話 ハラスメントの無い職場づくりを

松浦 健伸さん（石川・城北病院 精神科医）



今、私たちはたいへんな時代の転換点に立っています。世界をみるとこれまでの国際協調から「力による平和」の動きが広がり、日本においても急速に軍事費が増やされ、一方で庶民の命や暮らしはないがしろにされる政治が行われています。

私たちの職場もこうした世界全体、社会全体の影響を強く受けています。核兵器禁止条約や、ハラスメント禁止条約などが作られ、命と人権を守る動きの前進がみられる一方で、逆に核兵器が実際に使われる危険の高まりや、職場でのハラスメントの増加があります。私たちの職場も同様です。いい医療福祉の実践をしたい、だれもが尊厳をもって生き生きと働ける職場を目指したいと考える一方で、経営課題に追いまくられ、仕事の負担が増え、コミュニケーションが不足あるいは質が低下する中で職員間、患者利用者との間のハラスメントに苦しんでいます。

では、私たちはこうした状況にどう向き合えばいいのでしょうか。まずは矛盾があるのは当たり前であると考え、否定的に考えないことが大切です。そもそも生きること自体に、様々な葛藤があり、得られる喜びもあれば失う哀しみもあります。次にそれを一人だけで抱えないことが大切です。だれかとつながり、対話し、課題を共有することが大切です。なぜなら多くは一人では解決できないからです。三つ目には、これまでの他の人々の様々な知識や経験を参考にすることです。そのことは独りよがりや思い込みを防ぎ、より対処の幅と深さを広げることに通じるでしょう。そして最後に、私たちができる実践は、自分自身の足元からです。ネット文化が進歩したとしても、私たちの生きる現実、**「今・ここ」**にあり、目の前の自分たちの働く現場においてです。

職場のハラスメントを解決しようとすることは、私たちが人として何を大切にするのか、ということに結び付くと考えます。そのことは自分の身近な人とのかかわりを考えることにもなるとともに、社会や世の中におのずと働きかけることにもなるでしょう。

『健康で働きつづけられる職場づくり』パンフもささやかな取り組みです。しかし意義ある取り組みにつながる資料になると考えます。今回の改訂版は、全体に加筆され充実が図られていますが、ハラスメント対策部分は、このテーマが今日の喫緊の課題として重視されています。ぜひ目を通して職場や事業所での取り組みのヒントにいただければと思います。

